

平成29年度

我(和)がまちづくり(いしかわ地域の未来創造まちづくり事業)

活動報告書

バリアフリーで楽しい旅を！

特定非営利法人バリアフリー総合研究所

1. 開催概要

- 概要 障害のある方や外国人の方と、安心して旅行が出来る情報を収集し発信するための現地調査及び意見交換会の実施

目 標	バリアフリー化による「共生のまちづくり」
目 的	白山市の観光地を、障害がある方にも安心して旅行してもらえるよう、当事者にとって役立つ情報を収集し発信する。
経 緯	2015年 白山市主導「共生のまちづくりタウンチェック」参加 2016年 金沢学院大学生主導 「地域貢献型学生プロジェクト推進事業」支援 2017年 「バリアフリーで楽しい旅を」プロジェクト開始
事業内容	①利用する立場・視点で、事前にチェックリストを作成 ②まちづくり委員による実施個所の事前チェック ③当事者(車椅子使用者・視覚障害者・聴覚障害者等)と現地調査を実施 ④当事者、市、町関係者とともに意見交換会を実施
基本概念	バリアフリー度のあら捜しをして評価する事が目的ではない。 ありのままの現状を公表・発信して活用してもらおう。 公共団体・関係諸団体・観光施設・地域住民の方々には、 「共生のまちづくり」に向けた気づきや課題を見出して頂きたい。

- 開催日 事前調査： 29年 6月 ～ 7月（8回）
まちづくり委員会： 29年 6月 ～ 12月（5回）
現地調査：平成29年11月19日（日）10：00 ～ 15：30

- 会 場
現地調査：白山比め神社・千代女の里 俳句館
意見交換会：白山市民交流センター

- 主 催 NPO法人バリアフリー総合研究所

- 参加者 障害者： 6名
外国人： 1名
関係者： 17名
市・県担当者： 5名

2. 開催目的

高齢者・障害者・外国人の方々が、安心して旅行を楽しんでいただくためのバリアフリー情報を収集し、ありのままの現状を発信する事で、共生のまちづくりと一体になった観光地づくりを展開する。活動を通じて、公共団体・関係諸団体・観光施設・地域住民の方々への気づきや課題を見出していく。

3. 開催記録

①事前調査

候補地選定や事前のバリアフリーチェックを実施

	実施日	調査場所	参加者
第1回	6月7日(水)	金劔宮～ふれあい館	5名
第2回	6月14日(水)	聖興寺～金谷酒造	5名
第3回	6月28日(水)	白山ひめ神社～もく遊りん	5名
第4回	6月28日(水)	千代女の里俳句館～駅周辺	5名
第5回	7月18日(火)	道の駅・瀬女～ミントレイノ	5名
第6回	7月19日(水)	獅子ワールド館～獅子吼高原	5名
第7回	7月24日(月)	白峰(重伝建地区)～恐竜パーク	4名
第8回	7月31日(月)	ふれあい昆虫館～PGスクール	4名

候補地の選定

千代女の里俳句館



獅子吼高原



白山比咩神社



金劔宮



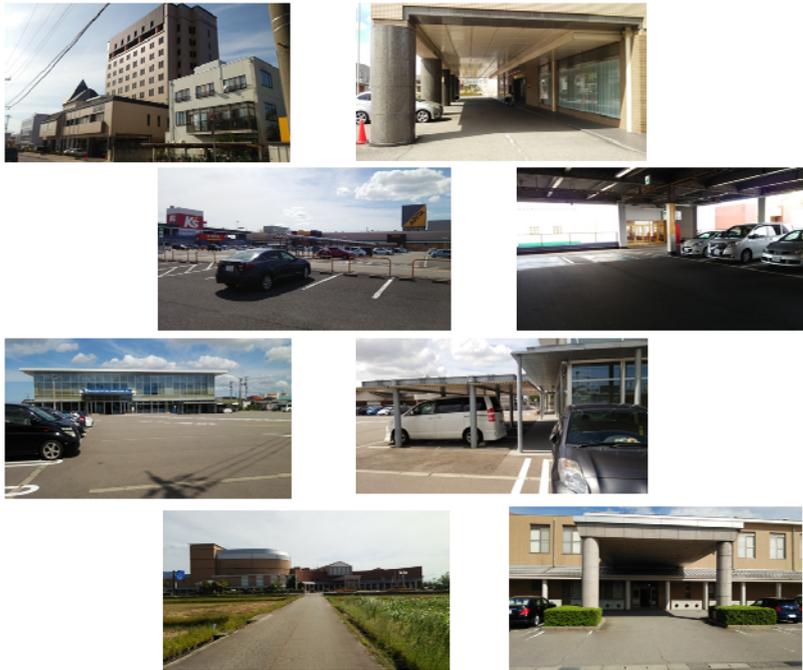
事前のバリアフリーチェック／白山比咩神社



事前のバリアフリーチェック／獅子吼高原



コース周辺の雨天でもOKなトイレ(車いす使用者にとって)



少々雨に濡れるが...



②委員会

	実施日	場所	参加者
第1回	6月10日(土)	BF総研事務局	4名
第2回	7月14日(金)	鶴来文化会館	8名
第3回	8月2日(水)	永大ホーム	6名
第4回	9月19日(火)	白山市商工会議所	4名
第5回	12月9日(土)	福祉ふれあいセンター	6名



③現地調査

開催日：平成29年11月19日（日）10：00 ～ 15：30

時間	内容
10:00	<p>(1) 白山市役所前より出発</p>  <p>視覚障害の方は、ガイドヘルパーが同行 聴覚障害の方は、手話通訳の方が同行 外国人の方は、日本語が理解できる方のため単独で参加 車いす使用者の2名は、自分の車を運転し、調査に参加</p> <p>雨に濡れずにバスに乗車できる場所を条件としました。</p>
10：30	<p>(2) -1 白山比め神社到着、現地調査の開始</p>  <p>バスを下車し、駐車場内の歩行通路を歩いて境内に向かう。 視覚障害者のガイドさんの声 ○「弱視の方にはわかりやすい舗装で良いのだが、出来れば点字ブロックがあるともっと良い ●「車が飛び出して駐車されていて危険」</p>
	<p>(2) -2</p>  <p>境内入口のお清め場にて</p> <p>車いす使用者 ●「手杓の位置が高くて、車いすからは使いにくい」</p>
	<p>(2) -3</p>  <p>車いす利用者用通路にて</p> <p>車いす使用者 ●「車いす用の通路なのに、段差を自力で越えるには体勢的に不安定であったため、補助してもらいバックで通過」</p>

	<p>(2) -4</p>  <p>社務所 お守り販売窓口にて</p> <p>聴覚障害者</p> <ul style="list-style-type: none"> ○●「窓口の巫女さんより紙とペンを渡されたのですが、対応に慣れておらず、宮司さんが出てきて対応いただいた」、「会話用のカード等があるとうれしい」
	<p>(2) -5</p>  <p>本殿 待合室にて</p> <p>聴覚障害者</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「案内放送だけの為理解できず、行動が伴わない」 「文字情報による案内があると安心」
	<p>(2) -6</p>  <p>本殿（参拝・ご祈祷）広間</p> <p>聴覚障害者</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「祝詞の時の“頭をお下げください”が理解できず、手話通訳の方も通訳の為に神殿に背中を向けざるを得ないことが残念」 <p>車いす使用者</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「内部用の車椅子に乗り換えるように依頼されたのだが、タイヤの空気圧も少なく無理だった」
	<p>(2) -7</p>   <p>歩道より、障害者用駐車場 及びトイレへ</p> <p>車いす使用者</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「多目的トイレの入口ドアが、開いた時にストッパーが利くと嬉しい」 <p>視覚障害者</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「歩道の点字ブロックは、トイレの入口まで連続していた方がよい」
<p>12 : 20</p>	<p>昼食 千代女の里 俳句館にて</p>
<p>13 : 00</p>	<p>(3) -1 千代女の里 俳句館の現地調査</p>

	 <p>館内</p> <p>視覚障害者</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「館内にも点字ブロックがあると助かる」 ○「音声ガイドが利用でき良かった」
	<p>(3) -2</p> <p>展示室内</p>  <p>聴覚障害者</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「音声にプラス文字情報による案内や説明があると楽しめるのだが」 <p>車いす使用者</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「出来れば2階にも車椅子で使用できるトイレがあると嬉しい」
14 : 00	<p>(4) -1 白山市民交流センターにて 意見交換会</p>  <p>車いす使用者、聴覚障害者、視覚障害者、外国人、県・市の関係者、BF 総研会員が4グループに分かれてワークショップ</p>
14 : 40	<p>(4) -2 グループごとに発表</p> 
15 : 00	各関係者の挨拶
15 : 30	解散

④アンケートの実施・結果

参加者へのアンケートを実施し、今後の活動の参考とした。

アンケート調査表 (バリアフリーで楽しい旅を！)

先日は悪天候の中、タウンチェックにご参加下さいまして、誠にありがとうございました。
また、意見交換会では活発なご発言をいただき、BF総研一同心より感謝しております。

つきましては、今後の活動につなげるため、アンケート調査を行いたいと思います。
お名前については、匿名でも、記名でもかまいませんので、自由にご意見をお書き下さい。

問1 次回に企画があったら参加しますか。

参加する

参加しない

問2 どこに行ったら良いと思いますか。(地区、施設)

地区(例:白峰地区等)

施設(例:いしかわルーツ交流館等)

問3 今回の企画(バス旅行)で感じたこと。

① 良かった点

② 改善すべき点

調査結果

問1 次回に企画があったら参加しますか。

○ 参加する

30名

○ 参加しない

0名

問2 どこに行ったら良いと思いますか。(地区、施設)

- ・道の駅 ・浅野太鼓 ・自然を感じられる場所
- ・白峰から町に降りてきたい。 ・獅子吼高原に行きたい。

問3 今回の企画(バス旅行)で感じたこと。

① 「良かった点」

- ・スケジュール表やパンフレットが付いていたので良かった。
- ・白山ひめ神社に入れてうれしかった。
- ・各所属者の協力があった。
- ・手話通訳が付いたので多くの情報が得られた。

- ・今回参加して地域での啓発が必要であることがよく分かった。
- ・他の障害者の行動が分かり参考になった。

②「改善すべき点」

- ・車イスの人もバスと一緒に乗るべきだった。
- ・各会場に責任者を付けて案内が欲しかった。
- ・受付の人に講習を受けてもらい障害の基本的知識を学んでほしい。
- ・点字表示がほとんどなかった。
- ・バスのガイドが案内説明をするときはボード等を使用してほしい。
- ・今回のチェックが 今後どのように生かされるのか 知りたい。

4. 事業の成果

当会員による事前チェックでも気づけなかったことが、障害のある方と行動を共にすることで新たな気づきを得ることが出来た点。

障害者の方も外国人の方も、同じ目的をもって行動する事で、お互いの立場や状況を理解しようとし、それぞれの状況を観察する事が出来たことが良かった。(聴覚障害の方が車いす使用者の状況について意見を発表していただいた)

車いす使用者用通路でも、実際には補助・介助が必要な個所があるなど、見落としやすいことに気づけたことで、バリアフリー情報の整理に役立つ事となりました。

5. 課題

今回参加された車いす使用の2名は、自分で車を運転し行動範囲も広い方であり、また視覚障害・聴覚障害の方々も、ガイドが同行するなど、本人及び同行者も本当の不便に気づけなかったように感じました。今後は、介助が必要な車いす使用の方や、ガイドヘルパーを付けない弱視の方、手話通訳を付けない聴覚障害者の方とのチェックも実施してみたいと考えます。

6. おわりに

バリアフリーに関するハード面をすべてクリアする事は難しいけれども、相手の立場や状況を知り、少しだけの配慮と心配りにより、よりお互いが楽しめる旅行が可能になると考えます。観光地や施設では、ハード面はもちろんですが、人的対応を高める事がバリアフリー度を高めることにつながるのだと理解していただき、調査後の情報を発信することで、障害を持った方も安心して旅を楽しんでいただけるよう、共生のまちづくり活動を続けてまいります。